

現代日本語配慮表現の記述方法の確立に向けて

—配慮表現データベース構築の基礎論として—

山岡政紀（創価大学）

要 旨

本稿は筆者が 2013 年に採択を受けた科研費研究課題「発話機能の中軸とする日本語配慮表現データベースの構築」の初年度の間報報告として、研究計画に記載した日本語配慮表現データベースの形式、作成方法について記述したものである。あわせて配慮機能の記述方法として、当該配慮表現が使用される文脈に共通する特徴を記述することや、配慮表現の使用と不使用を比較するテストなどが有効であると考えている。

キーワード：配慮表現、ポライトネス、データベース、FTA、発話機能

1. はじめに

コミュニケーション上の対人的配慮行動を記述した Leech (1983) や B&L (1987) らの「ポライトネス理論」が注目され、日本でもその影響を受けて 1999 年の国語審議会を皮切りに、日本語におけるポライトネスの表現形態が「配慮表現」として議論されるようになった。日本語教育学会誌『日本語教育』で、キーワードに「配慮」を含む論文は 2000 年以前にわずか 2 件だったが、2001 年以降は 6 件が採択されている。研究書としては彭飛 (2004)、国立国語研究所 (2006)、山岡政紀他 (2010)、三宅和子 (2011)、野田尚史他編 (2014) 等が出版されている。2012 年 9 月には国立国語研究所主催による「日本語の配慮表現の多様性」シンポジウムも開催された。これらの研究において多くの配慮表現の存在が指摘されているものの統一的な記述方法が確立されているとは言えない。

筆者はこれら現代日本語配慮表現の全体像を把握する目的で、現代日本語配慮表現のデータベース化作業に取り組んでいる。そして、2013 年度より本研究は科学研究費の採択を受け、研究助成を受けている。科研費の採択は研究の進展とともにその研究内容を公開し、その公益性を社会に示していく責務が発生したことを意味する。そこで、本稿では本研究課題の方法論、概要について広く公開し、研究者諸氏の批正を仰ぐことにする。

本論に入る前に科学研究費補助事業の概要を以下に記しておきたい。

研究種目：基盤研究 (C) 課題番号：25370529

研究課題：発話機能の中軸とする日本語配慮表現データベースの構築

研究代表者：山岡政紀（創価大学教授）

研究分担者：牧原功（群馬大学准教授）、小野正樹（筑波大学教授）、大塚望（創価大学准教授）、山下由美子（創価大学講師）、斉藤幸一（創価大学助教）

研究協力者：李奇楠（北京大学副教授）、金玉任（誠信女子大学教授）、カノックワ
ン・ラオハブラナキット（チュラロンコン大学准教授）

研究期間：2013 年度～2016 年度

2. 配慮表現データベースの概要

データベース・ソフトには Microsoft Access を使用する。Microsoft Access の利点としてはデータ型の種類が豊富であることが挙げられる。具体的には、テキスト型、メモ型、数値型、日付・時刻型、通貨型、ハイパーリンク型など9種類のデータ型があるが、本研究では特に「コーパスからの用例」のフィールドに64000文字の大容量を持つメモ型が適している。そのほか、クエリーを使用して様々な方式のデータ抽出が可能である点も Microsoft Access の利点である。

次に、データベースのフィールドとして次の9種を設定する。

- ①**配慮表現形式** 配慮表現として認定される語彙または連語。B&L (1987) ではFTA (フェイス脅かし行為) の補償行為となる言語行動全般をポライトネスとしているが、そのうちポライトネス用法の言語表現使用が一定程度以上に慣習化したものを配慮表現とする。この慣習化を巡る議論検討は別稿の山岡 (2015) に譲ることにする。
- ②**分類** 形式上の分類。具体的には次の6種である。
 - 1 前置き: 「すみませんが」や「よろしければ」のように接続助詞を用いながら構造的には従属節を形成してはならず、ある程度慣習化して用いられるものを指す。
 - 2 副詞類: 単語としての副詞と連語としての副詞句をあわせて副詞類とする。
 - 3 形容詞類: 単語としての形容詞と連語としての形容詞句をあわせて形容詞類とする。
 - 4 接尾語: 名詞または動詞に下接する非自立的な非活用語。
 - 5 補助動詞: 動詞または形容詞に仮設し動詞句を形成する非自立的な活用語。
 - 6 文末表現: 動詞・形容詞の活用語尾、助動詞、終助詞、連語としての動詞句の総称。
 - 7 その他: 上記のいずれの範疇にも含まれないもの。
- ③**原義** 文脈や対人的機能を捨象した辞書的意味。本来の意味・用法。基本的には国語辞典の語釈から転記する。
- ④**コーパスから取得した用例** 主に対人機能が明確な話し言葉コーパスを利用し、①の配慮表現形式をキーワードとして検索を行い、取得した用例のうちから、③の語義どおりの用法ではなく⑥の配慮機能が認められるものを抽出し、相当数を収録する。
- ⑤**当該発話の発話機能** 発話機能は発話の目的を記述するものであり、それと配慮表現の使用目的とは不可分の関係にある。発話機能を認定するには当該発話が成立するための語用論的条件を明確にしなければならない。
- ⑥**配慮表現の配慮機能** 当該配慮表現が対人関係上どのような効果を意図して使用されるのかを記述する。ここでは Leech や B&L のポライトネス理論を積極的に活用する。基本的には配慮表現を使用した場合と使用しなかった場合の表現効果の差異を記述する。まずは直観によって記述し、それが困難な場合はアンケートやインタビューによる調査を行う。
- ⑦**説明** 以上の各項目を総合的に統括する説明を添える。
- ⑧**外国語への対訳** 英語、中国語、韓国語への対訳を付記する。ただし、この点は研究協力者に依るところが大きいため、現時点ではオプションの位置づけにしてある。
- ⑨**参考文献** 当該配慮表現について先行研究が存在する場合は文献名を記載する。

3. テーブルの例—副詞類と文末表現—

下記の二つの表は「②分類」にそれぞれ副詞、文末表現との記載があるデータを抽出したテーブルの一部である。実際のテーブルはこの右側に④以降が続くが、ここでは紙面の関係で省略する。〔表1〕では他の品詞が併記されている場合がある。〔表2〕では「文末表現」が品詞より上位の単位のため、品詞、形態、連語の種類を必ず併記している。

〔表1〕データベース・テーブルのサンプル—副詞類—

①ID	①配慮表現	②分類	③原義
1	ちょっと(一寸)	副詞	数量・程度がわずかであるさま。
2	ぜひ(是非)	副詞	心をこめて、強く願うさま。
3	わざわざ	副詞	他のことのついでではなく、そのためだけに行うさま。
4	ただ(只)	副詞、接続詞	それよりほかにはないと限定するさま。
5	もうとう(毛頭)	副詞	(意思が)毛の先ほども。少しも。
6	まったく(全く)	副詞	完全にその状態になっているさま。
7	たしかに(確かに)	副詞	信頼できるさま。安心できるさま。
8	なるほど(成程)	副詞	他人の言葉に対して自分も同意見であるさま
9	さすが／さすがに(流石)	副詞、形容詞	予想・期待したことを、事実として納得するさま。
10	まだまだ	副詞	いまだに。いまでも。
11	そこそこ	副詞	十分ではないが平均以上のレベルにあるさま。
12	いちおう(一応)	副詞	完全ではないが、最低の要件は満たしているさま。
13	なんか	副詞、間投詞	はっきりした訳もなく、ある感情が起こるさま。
14	どうも	副詞	物事の原因や理由がはっきりわからない気持ちを表す。
15	けっこう(結構)	副詞、形容詞	完全ではないが、それなりに十分であるさま。
16	ぜんぜん(全然)	副詞	全くそういうところがないさま。

〔表2〕データベース・テーブルのサンプル—文末表現—

①ID	①配慮表現	②分類	③原義
1	～かもしれない	文末表現、助動詞	断定はできないが、その可能性がある。
2	～気がしないでもない	文末表現、二重否定	わずかながらそのように思う。
3	～もの	文末表現、終助詞	詠嘆の意をこめて理由を表す。
4	～たいと思う	文末表現、思考動詞	～する意志がある。
5	～てもいい	文末表現、助動詞	～することを許す。
6	～が／～けど	文末表現、言いさし	～と相反する内容を後に述べる。
7	～ので	文末表現、言いさし	～を理由として帰結を後に述べる。
8	～のに	文末表現、言いさし	～の期待に反する内容を後に述べる。
9	～ないと言ったら嘘になる	文末表現、二重否定	(主観的表現を受けて)～の気持ちが少しはある。
10	～と言っても過言ではない	文末表現、二重否定	(強い個人的意見をを受けて)～と敢えて言う。
11	～でしょう	文末表現、助動詞	不確かな断定や推量を表す。
12	～かも	文末表現、助動詞	断定はできないが、その可能性がある。
13	～みたいな	文末表現、助動詞	婉曲的な断定を表す。
14	～と言えなくもない	文末表現、二重否定	(個人的意見をを受けて)～と遠慮気味に言う。
15	～のように思う	文末表現、思考動詞	話者の意見をやや婉曲的に述べる。

4. データの事例—副詞「いちおう」—

3の〔表1〕副詞類のデータから12「いちおう」のデータサンプルを表示する。

〔表3〕データのサンプル—副詞「いちおう」—

①配慮表現	いちおう（一応）
②分類	副詞
③原義	完全ではないが、最低の要件は満たしているさま。
④コーパスからの用例	<p>(1) 面接の時にはくわしい説明が無かったんですが、お恥ずかしい話ですが税理士事務所事態（原文ママ）具体的な仕事内容を把握していません。一応簿記2級持っていたので採用されました。（Yahoo!知恵袋）</p> <p>(2) 主人はネイルを所詮遊び程度にしか思ってないのです。それよりはコンビニのレジとか食堂などの方が堅実な仕事のように思っています。それも悪いとは思わないけど私はせっかくのチャンスで一応勉強もしたネイルの仕事ができればすごくいいと思うのですが、男性には理解しにくい職業でしょうか。（Yahoo!知恵袋）</p> <p>(3) 体育で久しぶりにフットサルをやった♪一応元サッカー部なのでサッカーは好きです♪鈍ってましたね〜^^；笑（Yahoo!ブログ）</p>
⑤当該発話の発話機能	(1) 《自賛》、(2) 自賛を含む《質問》、(3) 自賛を含む《感情表出》
⑥配慮表現の配慮機能	自賛を含んだ発話を行わざるを得ないような場合に、謙遜の法則に従って自賛の程度を抑制しようとする配慮。
⑦説明	自賛を行うのは、発話の目的上、話者自身の肯定的な能力や行為等について言及せざるを得ないような場合である。例えば、(1)や(2)は、《質問》を行う上で自身の資格や経験に言及せざるを得ないケース。(3)は日常のできごとを《報告》する際に自身の経験に言及したケース。いずれも「一応」を用いて抑制的に言及している。
⑧対訳	〔英〕 just, tentatively, for the present 〔中〕 也算、還是、基本、大致
⑨参考文献	清水法美（2013）

ここではいくつかのフィールドについて、「一応」を例とした説明を加える。

「③原義」には文脈や対人的機能を捨象した辞書的意味を記載する。ここでは、『明鏡国語辞典第二版』（北原保雄編、大修館書店、2010年）から引用している。多義的な語彙の場合は、当該配慮表現が慣習化する前のもとの語義に相当するもののみを記載する。

「④コーパスからの用例」ではコーパス検索によって取得した事例にそのまま番号をつけて入力している。ここでは国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)から検索した用例3例を表示している。実際はもっと多くの用例を掲載することとなる。用例の長さとしては、基本的に文脈が読み取れるのに十分な範囲を適宜判断して抽出している。

「⑤発話機能」では当該の配慮表現形式と、それが使用される発話の発話機能との間に

一定の相関関係があることを確認している。(1)は発話機能自体が《自賛》、(2)と(3)については(2)が《質問》、(3)は《感情表出》であるが、その発話の中に自賛の要素が入っており、そのことが当該発話をFTAにしているという共通点が見られる。

「⑥配慮機能」では⑤の項で確認したFTAに対して当該の配慮表現形式がいかなる機能を果たしているかを記述している。ここでは後述する方法によって検証した結果、「自賛を含んだ発話を行う際に、謙遜の法則に従ってそれを自賛であると取られないようにする」機能を果たしたものと解釈し、記載している。

「⑦説明」では、⑤や⑥の記述を中心に、他の項目の記載内容を総括する説明を加えている。ここでは、⑤に記載したように、各用例が示す文脈がいずれも発話の目的上、話者自身の肯定的な能力や行為等について言及せざるを得ないような場合であることと、そして⑥に記載したように、「一応」が自賛を抑制する機能を果たしていることを記載している。

「⑧対訳」には、外国人研究協力者の協力を得てオプション項目として入力予定である。なるべく配慮表現用法の意味を反映した訳語を記載したいが、日本語の配慮表現の訳語が当該言語においても配慮表現であるとは限らず、その場合は「③原義」の訳語を記載する。

「⑨参考文献」には、当該表現の配慮表現用法について考察した先行研究名を記載する。「一応」については管見の限り学生の卒業論文しかないため、これを記している。

5. 配慮機能の検証

5.1. 文脈の検証

配慮表現の配慮機能を検証する方法論としては、第一に当該配慮表現が使用される際の文脈特徴を帰納的に検証することである。配慮表現が慣習化される背景には、当該の表現が一定の共通性した性質のFTAを創出するような文脈で繰り返し使用されるという特徴があることが仮説として予想される。そしてそれはコーパス検索から得られた用例からの帰納的検証を行うことで証明されると考える。

具体的に上述のデータ例「一応」をもとにこれを検証してみると、(1)は自身が税理士事務所に採用されたことに関連する相談を試みており、その前提となる採用理由を説明する必要から自身の簿記検定資格に言及している。(2)も同様に夫婦関係に関する相談を行う前提として、自身がネイル技能を有していることに言及している。(3)はブログに日常の出来事としてフットサルを楽しんだことを記載する際に、自然な流れで自身のサッカー経験に言及したケースである。

これらに共通しているのはいずれも自賛すること自体が目的ではなく、別の発話目的のために付随的に自身の肯定的属性に言及せざるを得なかった、あるいは自然な流れとして言及するに至った、と言えるものばかりであることがわかる。つまり、自賛をなるべく避けようとするポライトネスの原理（謙遜の原則）に従ってはいるが、必然性があって消極的に自賛し、結果としてFTAを余儀なくされているという共通特徴が見て取れる。

以上のような文脈の検証をから得た結果として、「⑥配慮機能」の前段に「自賛を含んだ発話を行わざるを得ないような場合に」と記載している。

5.2. 使用と不使用との比較テスト

次に、そのような文脈上に生じる FTA を緩和するポライトネスとして当該の配慮表現形式の使用がどのような効果を有しているかを検証するために、配慮表現を使用した場合と使用しなかった場合の文意を比較するというシンプルな方法を行っている。

(1) 一応簿記2級持っていたので採用されました。

(1) '(φ)簿記2級持っていたので採用されました。

話者自身の肯定的属性である「資格」に言及した(1)'はポライトネスの原理における謙遜の原則に反しているように感じられる。一方、(1)では「一応」の本来の語義である「完全ではないが、最低の要件は満たしているさま」によって自身の資格の価値を下げようとする意図が感じ取れる。但し、資格は検定試験の合格によって得られるものであるから、話者が「一応」を付したところで資格自体の客観的評価や信頼性が揺らぐことはない。つまり、ここでは「一応」の本来の語義は慣習化の結果ほぼ失われており、結果として謙遜のニュアンスだけが残り、(1)'における自賛の違和感を緩和している。

(2)、(3)を用いた比較テストにおいても同様のことが言える。

(2) 一応勉強もしたネイルの仕事ができればすごくいいと思うのです。

(2)'(φ)勉強もしたネイルの仕事ができればすごくいいと思うのです。

いずれの場合も、せっかく勉強して会得した「能力」を活かしたいとして自身の肯定的属性である「能力」に言及しているが、(2)'では積極的に強調しているように感じられるのに対し、(2)では消極的に自身の能力価値を抑制しつつ述べているように感じられる。

(3) 一応元サッカー部なのでサッカーは好きです。

(3)'(φ)元サッカー部なのでサッカーは好きです。

(3)'ではこれも自身の肯定的属性である「経験」が表現され、サッカーの能力の高さを自慢しているようにも取れるが、(3)ではそれが抑制的に表現されている。

以上のような傾向性を一般化して「⑥配慮機能」の後段に「謙遜の法則に従って自賛の程度を抑制しようとする配慮」と記載している。しかしながら、(1)～(3)の聴者は文字通りの「不完全」な意味には解釈せず、あくまでも謙遜として解釈し、実際には高度な資格、能力、経験を有しているのだらうと解釈するであろうことが見て取れる。

6. 今後の課題

「④コーパスからの用例」には、単にキーワード検索によって取得した用例を大量に入力しただけではデータベースとして有用なものにはならない。まず、当該用例が配慮表現と言えるものかどうかを一つ一つ確認しなければならない。配慮表現は当該表現形式のポライトネス用法がある程度慣習化したものであるから、逆に言えば慣習化する以前の原義による用法もコーパス上に相当数あるものと考えられる。従って、単に検索を行うだけでなく一例ずつ当該表現形式の意味用法について確認する必要がある。

そして、各用例に対して「⑤発話機能・⑥配慮機能・⑦説明」の分析・記載を同時並行で行う必要がある。その意味では各表現形式をリストアップするたびにそれらの語法研究を行うつもりで対処しなければならず、この作業に従事する研究分担者、研究協力者は頻繁に討議を行わなければならない。

「⑥配慮機能」の分析においては、使用・不使用テストが言語直観に依存するものであるが、使用・不使用の違いが研究者個人の言語直観だけでは十分に読み取れない可能性もある。その場合は平均的な日本語話者の言語直観をより客観的に調査するためにアンケートやインタビューなどの方法で配慮表現用法の検証を行うことも考えている。

また、『日本語配慮表現データベース』が完成した際の利用法としては、Microsoft Accessの機能を活用して自由自在にデータ抽出ができるような形で研究者に提供したいと考えているが、Microsoft Accessが必ずしも広く一般に普及したデータベース・ソフトではないため、一般利用者のインターフェイスを考慮した検索ソフトを新たに開発することも検討したい。また、そのエッセンスを初学者や日本語学習者にもわかりやすく可視化するために、『(仮称)日本語配慮表現事典』の刊行ということも視野に入れて取り組んで参りたいと考えている。

使用するコーパス

発話機能ラベリング付シナリオ会話コーパス（未公開） 作成者：創価大学 山岡政紀研究室
現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ） 作成者：国立国語研究所
日本語話し言葉コーパス（CSJ） 作成者：国立国語研究所
名大会話コーパス 作成者：名古屋大学 大曾美恵子研究室
その他

参考文献

- Brown, P. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Leech, G. (1983) *Principles of Pragmatics*, London: Longman.
- 国立国語研究所 (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』東京：くろしお出版
- 清水法美 (2012) 「配慮表現としての副詞『一応』の研究」創価大学文学部卒業論文
- 野田尚史・高山善行・小林隆編(2014) 『日本語の配慮表現の多様性——歴史的変化と地理的・社会的差異』東京：くろしお出版
- 彭 飛 (2004) 『日本語の「配慮表現」に関する研究』大阪：和泉書院
- 三宅和子 (2011) 『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』東京：ひつじ書房
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』東京：明治書院
- 山岡政紀 (2015) 「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『第17回大会発表論文集』日本語用論学会

(山岡政紀、創価大学文学部教授、myamaoka@soka.ac.jp)